

絆 求 め て

7月31日発行

文責 幼児教育専門員 久保田学



春季公開講座を実施しました！

令和7年5月17日(土)、同志社女子大学 現代社会学部 特任教授 笠間 浩幸先生を講師としてお迎えし、春季公開講座をWEBで実施しました。テーマは、「砂場から見る子どもの主体的な学びと保育の課題」です。350名の先生方にご参加いただきました。

<研修から学んだこと>

○砂遊びは、様々な力を育むことができ、子どもたちにとってとても意味のある大切な遊びなのだと思ふことができた。○歳児から砂遊びを通して五感と深部感覚が発達していくのだと知り、砂の種類・濡れている時の色の違いや手触り、湿った時の匂いなど、子どもたちと共有しながら、五感や深部感覚を刺激していくような関わりが必要だと感じた。また、砂遊びに興味を持つためには、玩具を用意することが大切になってくるのだと学んだ。園での子どもたちの姿を思い返すと、車の玩具を用意すると砂で道路を作り車を走らせたり、鍋やフライパン、机などを用意すると、料理ごっこやおうちごっこを楽しんだりする姿があり、玩具があることで、遊びが広がっているのだと感じた。砂遊びを深めていくためには、保育者の関わり方や環境整備も重要だと改めて感じる事ができた。

<今後の保育実践に生かしたいこと>

○1番印象的だったのは裸足で砂山に立ち上がる女の子です。一つの出来事から五感や深部感覚まで身につくとは本当に驚きです。砂遊びに対する汚れは普段から気にすることは無いですが、裸足になって砂遊びをすることは少ないので、砂遊びの活動の際、いざ裸足になった時、年少の子どもでも足から感じる砂の感触が初めてで怖くなってしまったり、汚れることが気になってしまったりして、なかなか活動に取り組みない子もいます。手足の感触をもっと早く知っていたらその後の様々な活動も更に発展する活動になったのではないかなと改めて考えさせられました。

保育実習に関わる研修を実施しました！

令和7年6月6日(金)、松本短期大学 幼児教育学科 講師 高橋 典子先生を講師としてお迎えし、保育実習に関わる研修をWEBで実施しました。テーマは、「実習生とともに保育の学びを深める実習指導の在り方」です。120名の先生方にご参加いただきました。6月は保育実習を実施している園が多く、研修の内容をさっそく実習に生かした園もあったようです。なお、本研修は振興対策・経営委員会主催による研修です。

<研修から学んだこと>

○クラスに入る実習生や、学生の実習記録を読んで、教師の動きをよく見ているなど関心しました。子どもへの声がけで学んでくれている姿も多くあり、保育者が子どものために動いているという事も感じ取れる感想に嬉しく思いました。その反面話しかけづらさや、嫌な思いをしている事も知り、自分の対応や雰囲気は大丈夫だったのかな?と心配になりました。

<今後の保育実践に生かしたいこと>

○昔の実習と比較すると、厳しいことについては当たり前のことしか伝えていない。例えば、仕事なのだから、指定された書類の提出はちゃんとすること、体調が悪くない限り毎日来ること等、社会人としてお給料をいただくという事は遊びではないため、楽しいことばかりではない事を必要な子にはやんわりと話の中に組み込む程度である。しかし、今回のお話で、更に難しさを感じた。これまでの関わりはどうだったのか改めて振り返り、「この仕事に関わりたい」と実習後に希望を抱ける指導ができていたか考えたい。そして、自分自身、実習生が「こんな先生になりたい」と思ってもらえるような先生になれるよう、私自身が楽しんで子どもたちと向き合いたい。

設置者・園長研修を実施しました！

令和7年6月10日（火）、認定こども園若穂幼稚園 園長（長野県私立幼稚園・認定こども園協会 副理事長） 和田 典善先生を講師としてお迎えし、設置者・園長研修をWEBで実施しました。テーマは、「こども誰でも通園制度と制度から垣間見る今後の展望」です。若穂幼稚園は他園に先行し、こども誰でも通園制度を取り入れていています。研修では、制度の概要、実施する中から見えてきたメリット・デメリット、今後の動向などについてご講義いただきました。なお、本研修は振興対策・経営委員会主催による研修です。

<研修から学んだこと>

- 「こども誰でも通園制度」について聞けば聞くほど実施するには、難しい問題がたくさんあることに気付きました。子どものための子どもの育ちを応援する制度とのことでしたが、本当に子どものためになることなのかな？ 保護者の孤独感の解消や負担軽減など、リフレッシュ面では有効なのかも知れないが、子どもは不安なのではないかな？ 親子で通園ならまだ現実的なのかな？と個人的には思いました。また職員の配置などの面では課題が多くあり難しいなと思いました。すぐに生かしていけることというよりは、今回の講義をお聞きしたことで考えていくきっかけになりました。
- 近年、未満児の確保が難しく、幼稚園経営の維持が危ぶまれるという声も多く聞かれます。しかし、こうした不安や焦りに振り回されるのではなく、私たちはあくまで幼稚園本来の目的や理念に立ち返ることが大切だと感じています。幼児期の子どもたちにとって、安定した環境の中で自分らしく育つための基盤となる幼児教育は、単なる預かりではなく、将来にわたる成長を支える大切な営みです。制度そのものや、それにどう対応していくかという実務的な検討ももちろん重要です。しかし、それ以上に優先すべきは、子どもの最善の利益を基盤とした保育・教育のあり方です。今後の国の子育て政策においても、こうした幼児教育の意義がしっかりと認識され、制度の根幹に据えられていくことを強く願っています。

主任・学年主任研修を実施しました！

令和7年6月21日（土）、全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 副理事長 安達 譲先生を講師としてお迎えし、主任・学年主任研修を長野市生涯学習センターで実施しました。テーマは、「主体的な保育のための同僚性の構築と学び合う風土づくり～これからの幼児教育の動向をふまえて～」です。当日はテーマに関わる講義や同年代の先生によるグループワークを通して、主任・学年主任として同僚性をどう高めていくかについて、学び合うことができました。

<研修から学んだこと>

- 子どもの姿に対し保育者の困り感がある時、「子どもの姿や事実を取り上げる→その事実からどう育とうとしているか解釈してみる→ねらい、手立てを立てて対応する→評価→繰り返し」というサイクルをとっていくという話がありました。これまで困った時にどうすれば良いかという部分だけを考えてしまいがちでしたが、順序でみていく事で、見方が変わることを知りました。
- 午後の講義、ワークショップでは、他の園の先生方と情報交換できました。1番はじめのキックオフMTGシートでは、初めてお会いする先生ともすぐに打ち解けるきっかけになり、まるで仲良しになれたかのような空気に包まれました。いつもどうしても硬苦しい雰囲気での研修になりがちなので、この方法を早々園でもやってみようと思います。
- 「悩みのタネ」「嬉しい育ち」など、同僚同士が語り合う場、機会を作っていきたいと思います。そのために、ドキュメンテーションを活用します。



主任・学年主任研修のレポートに以下のような内容の記載がありました。「保育計画をしていく中で、「毎日やっているから」「この時期にはこの製作をやるから」と、保育者がやらせたい事が先行してしまっていると思い当たることがありました。…」保育でのカリキュラムマネジメントで大切にしなければならない事は、今ある子どもの姿を中心に据え、そこに保育者としてどのような力をつけたいかを考え、具体的にどんな保育をするかを決め出し実践することです。この事は分かっていることではあるけれど、実はとても難しいことです。学び合いたい課題です。（専門員）

* 春季公開講座後に、何園か訪問させていただいた折、多くの園で砂場に関わる話をいただきました。

「研修後、早速ダイソウにに行ってバケツを購入、型抜きバケツを作りました。」「研修後に、自園の砂場について先生方で話し合いをしました。乾燥した砂、子ども達が遊び込むには不十分な遊びのためのアイテム、粒度が荒すぎてうまく固まらない砂 など、課題が沢山見えました。砂場環境の改善頑張ります。」「子どもの年齢や発達段階を考え、砂場環境を考えていなかったなと反省しました。」「1, 2歳児用の砂場を作ります。」砂場は子ども達の主体的な学びを支える重要な環境であるだけに、その環境構成のあり方が非常に重要であると感じた先生が非常に多かったのだと思います。この思いをぜひ、形にしていけると良いですね。

* 保育者養成校が軒並み定員割れをし、保育者不足が多くの園での課題となる中、こども誰でも通園制度の導入が進んでいます。この制度が保育現場にとってどんな効果をもたらすのかはまだ未知数です。しかし先生方にとって働きやすい職場であることが、保育者の離職を減らし、子ども達の笑顔、安心・安全につながることは確です。そのために現場はどうあるべきかを考えてたいですね。(専門員)